

# 母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—



第26号

2011 Winter

## 目次:

百日咳ってご存知ですか  
—意外とやっかいな  
感染症です—

阪神タイガース  
藤川球児投手に聞く

ファミリールームが  
できました

がんばり屋さん

センターからのお知らせ

## 百日咳ってご存知ですか？

—意外とやっかいな感染症です—

その名の通り、感染すると強い咳が長引く病気です。でも、なーんだ咳だけかなんて思わないでください。小児ではかなり重症化したり、死亡することもある怖い病気なんです！実際、ワクチン導入前の米国では死亡率の最も高い感染症の1つだったのです。日本でもワクチン導入前には年間10万人以上の感染者の報告があり、その10%が死亡していました（大半は6ヶ月未満の乳幼児）。今日は「なぜ百日咳がやっかいなのか」についてお話します。

### 1 百日咳はやっかいである その1 - 診断がつきにくい

大人では感染初期には軽い風邪症状しか認めません。有効な迅速検査の方法もないため、この時期に百日咳と診断するのはかなり難しいです。しかし困ったことに、この時期が周囲へ感染を広げる可能性が最も高いのです（感染力はインフルエンザの5倍以上）。この時期が1～2週間続いて、その後特有の強い咳が長期に続きますが、咳だけなので病院に行って頂けないこともあります。このため、気づかずに無治療でいる方も多いのではないかと思います。

### 2 百日咳はやっかいである その2 - 小児はかなり重症化することもある

免疫力の低いお子さんや、1歳未満の乳児が感染すると重症化しやすく、肺炎、けいれん、脳症、無呼吸発作（呼吸停止）をおこすことがあります。死に至ることもあります。ちなみに、お母さんから赤ちゃんへの抗体の移行は十分でないと言われています。私自身、ご家族から百日咳に感染し集中治療を要した赤ちゃんを何人か診たことがあります。

### 3 百日咳はやっかいである その3 - ワクチンを受けていない大人が多い

我が国では1950年より百日咳ワクチンが導入され一旦患者数は激減しましたが、ワクチンによると思われる副作用等の問題により、1975年から1981年まで接種率が極端に低いまま推移しました。このため、現在の30歳代以降の方の中にはワクチンを受けておられない方が相当数おられると思われます（仮にワクチンを受けていても、年齢とともに効果が弱まるので、それだけで万全とは言えません）。

### 4 百日咳はやっかいである その4 - 最近大人に増えている

2000年以降、世界的に百日咳の再流行のきざしが見られます。感染者の半分は大人の方です。このため年長者への予防接種の施行も考慮する必要があり、米国では年長者用の百日咳ワクチンが2005年に認可されました。

### じゃあ、どうしたらいいの？

こどもへの予防接種（百日咳ワクチンは三種混合に含まれています）をしっかりと行うことが重要です。しかし、これだけでは予防接種前の小さなこども達を守ることまではできません。大人も含めた社会全体で早期治療や予防を行い、こども達に百日咳をうつさないことも非常に重要です。さいわい百日咳菌には一部の抗生物質がよく効きますので、きちんと治療すれば5日程度で他人への感染力はほぼ消失します（症状はしばらく続きます）。大人の方も1～2週間以上続く咳症状の際には受診をお勧めします。

（感染症防止対策委員 望月 成隆）



## 阪神タイガース 藤川球児投手に聞く

阪神・藤川球児投手が、12月10日に当センタークリスマス会に2年連続で参加してくださいました。お忙しい中、「母と子のにわ」のインタビューにも答えて頂き、子どもたちに素敵なメッセージを下さいました。

インタビュアーは、大の阪神ファンの新生児科の平野先生と血液・腫瘍科の安井先生です。

**平野** お忙しいところ、ありがとうございます。昨年に引き続き、母子医療センターを訪問していただいて、本当にうれしく思っています。訪問については、骨髄バンクを通じてご連絡をいただいたんですが、藤川選手と骨髄バンクの関係を教えていただけますか。

**藤川** 僕の出身の高知県の子が白血病にかかって、野球ができなくなっている。野球をしたいという夢を持っている子なので、元気づけて下さい。と知り合いから頼まれたのが最初です。その時は「戸田君※がんばれ。」と1枚の色紙を書いて、裏にいろんなことをいっぱい書いたんですが、その戸田君が元気になって挨拶に来てくれた時、「球児さんにすごく励まされた」と言ってくれて、自分にはそんな力があるんだとその時少し感じたんです。戸田君から、「同じ病棟の子がみんな元気に退院できるわけではなく、これからは少しでも多くの方に骨髄バンクに登録してもらえるように僕も出来ることをやっていく」と聞いて、自分にも出来ることがあったらどんどんやっていきたいと思ったのがきっかけです。

**安井** 今年の夏、メイク・ア・ウィッシュで僕が主治医をしていた子の夢「阪神甲子園球場内見学」をかなえてもらった時も、甲子園では藤川選手をはじめとしていろいろな選手によくしていただいて、本当にありがとうございました。甲子園から帰って来た時の彼の生き生きした顔は忘れられません。これからがんばるといふ気になっていました。その後、お父さんからもう一度移植して、がんばっていて、すごく藤川選手から力を頂いたんだなと感じました。結局は残念な結果となったんですが。

**藤川** 運命とは残酷だともありますね。僕にも子どもがいるので、特に病気の子どもたちに、自分が野球選手でいるうちに何かできないかと感じています。先生たちのように病気を治すことはできませんが、応援団としてやれることがあると思っています。僕一人でもやりたいし、そういう人が何人も出てきてくれたらいいですね。先生方と違って、日頃僕らは命の現場に立ち会うことはほとんどありませんが、今日のような病院訪問を通じて、実際にその現場を自分の目で見て、実感して支援していくことが必要だと思っています。今日はみんながどんな表情なのかをちゃんと見たいと思っています。一年ぶりなんで・・・。

**平野** 去年も来て頂きましたが、率直な印象はどうでしたか。

**藤川** 最初は、クリスマス会に参加している子どもたちを見て、意外と元気だなと思ったんです。でも、病棟から出られない子もいっぱいいて、こんなことで力になれるのかなと思いつつ、サインを渡したのを覚えています。自分なんて小さいしそんな力はないと思ったんです。病棟でも走り回っている子もいましたが、お母さんやお父さんから、夜になったら調子悪くなることも多いんですよと聞くと、無理するなよと思ったりしました。去年訪問したあと、患者さんのお母さんから手紙をもらって、そこには、「がんばったんだけどお空へ旅立ちました。でも、藤川選手に会えたことをとても喜んでいました。」と書いてあったんです。その手紙を自分の子どもや妻にも見せて、もっとこの活動をやっていこうと話しました。



**平野** 自分もそうだったんですが、野球選手にあこがれている子どもたちはたくさんいると思います。そんな子どもたちにメッセージをいただけませんか。

**藤川** 夢は遠いところにあるかもしれないけど、近いところに目標を持ってほしいと思います。目標がないと夢にもたどりつけないので。今苦しくても、目標に向かって突き進んでいくとその先にある夢に少しでも近づくと。でも、辛い時は周りに言えばいいと思います。お父さん、お母さん、先生に「つらいよ。」「身体がきついよ。」「気持ち落ち込んでるんだけど、どうしたらいい。」言葉に出して言ったらいいと思います。お父さんやお母さんはそれをしっかり受け止めてあげてほしいと思います。夢と現実の間に目標をしっかり立てることが夢に近づく一番の方法かなと思います。道筋がしっかりしていれば、それることもないんじゃないですか。

**平野** 藤川選手の夢は、メジャーリーグの選手になることですか？

**藤川** それは、今は目標ですね。夢は、学校の先生になることが夢ですね。実現できるかどうかはわかりませんが、そのためにはいろいろなことを経験しないと。その中に、アメリカに行って違う文化を知ることを入っています。いろいろな子どもたちに会って、子どもたちからパワーをもらって、いろいろなことを経験しながら夢に近づけたらいいなと思っています。

**平野 安井** ありがとうございました。

### インタビューを終えて

短いインタビュー時間でしたが、身近に接することができ、まだまだこの紙面では書ききれないほどの熱い思いを語っていただき、非常にエネルギーを頂きました。いつの時代でも、どんなに小さくても“目標”“夢”をもって、そして一歩一歩前進していく。これは職業に関わらずいつでも誰にでも共通することで、あらためて自分を見直す機会となりました。今後も藤川選手の活躍に注目していきたいですね。（平野・安井）

このインタビューの後、クリスマス会に参加した藤川選手から素敵なクリスマスプレゼントがありました。「もしヒーローインタビューで言ってほしいことがあれば、手紙に書いてタイガースに送って下さい。実現できることはやります。」とお立ち台から励ましのメッセージを送ることを約束してくれました。このことは、マスコミにも大きく取り上げられました。何度もお立ち台に立って、病気と闘う子どもたちへ夢と勇気を与えてほしいですね。



※戸田君 高知大学の野球部で活躍していた時、血液腫瘍を発症しましたが、母子医療センターで治療を受け、見事克服し、再び大学のリーグ戦への復帰をはたしました。自らの呼びかけで、「骨髄バンク8万人登録運動」が始まり、ドナー登録者の増加にも大いに貢献しました。昨年のクリスマス会には参加してくれて、母子医療センターの子どもたちへ力強いメッセージをくれました。今年からは高校の先生になって、更なる夢に向かってがんばっているそうです。



## ファミリールームができました



### 在宅医療支援室から

入院されているお子様が、退院後ご自宅で「経管栄養療法」「気管切開療法」「中心静脈栄養療法」などの様々な療法が必要になる場合があります。「病院でいっぱい練習したけど、病院と同じように家でできるかな…ちょっと不安…」などのご意見からファミリールームは誕生しました。できるだけ、ご家庭と同じような環境で練習ができるようにファミリールームは工夫されています。ご家族やお子様が、安心してご自宅で過ごしていただけるように、お家に帰る前にファミリールームをご利用ください。

### 3階東病棟看護師から

初めて医療的ケアを行いながら、24時間お子様と過ごす、「こんな時はどうしたらいいんだろう?」「これで大丈夫かな?」「病院で見る様子と何か違う気がするな?」などいつも気にならなかったことに気付くことがあるかもしれません。ご家族が主体的に行なえるように看護師が見守りサポートしていきますので、気軽に何でも相談してください。お家でどのようにすればよいかをご家族と一緒に考えていきたいと思っています。



病室



畳の部屋



キッチン



浴室

ファミリールームの利用を希望される入院患者さんは病棟のスタッフにご相談ください。

在宅医療支援室 3階東病棟



# がんばり屋さん

# 金田 仁美さん

金田さんは、2月17日当センターでピアノコンサートを開催してくださいました。

2011, Winter 四台せ 金田調査室(内線3241)  
 大阪府立母子保健総合医療センターピアノコンサート  
 金田 仁美 with 遠藤 志季(バイオリン)  
**Piano Concert**  
 とき 2011年2月17日(木) 15:00~  
 ところ 1階 ピアノホール



- ★エルガー 愛の挨拶
- ★サラサーテ ツゴイネルワイゼン
- ★いきものがかり あひがとう
- ★嵐 見てない空
- ★ジブリ対レー
- ★ショパン ソナタ3番 他

★主催 仁美  
 母子保健センター専任。第19回国際音楽コンクールピアノ部門第1位、第13回イル・ド・フランス国際ピアノコンクール第3位、第2回日本ピアノ教育連盟主催ピアノコンペティション本選入賞。第2回国際新人音楽コンクールピアノ部門第3位、2004年秋の森ホール主催のフレッシュ・リサイタルにてオランダ室内管弦楽団と共演。第1回国際演劇アカデミー賞。第4回和歌山音楽コンクールピアノ部門第1位入賞。第2回記念アジア新人音楽オーディション優勝。昭和音楽大学大塚キャンパス交響楽団と共演。京都府立芸術大学音楽部卒業。在学中、同大学主催ピアノフェスティバル、室内リサイタル、卒業演奏会等に出演。第4回国際新人音楽会に出演。これまで、ピアノ全米ツアー、藤原久美子、山崎茂子、笠原春子、岡部敦子、神谷朝代、ブルーノ・リグットの各氏に師事。チェンバロも山根氏に師事。現在同大学音楽学専攻科修士課程ピアノ専攻に在学中。

★演奏 志季  
 大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽部弦楽専攻卒業。第9回国際音楽コンクール高校生部門1位。第9回秋の森フレッシュコンサートに出演。その際、優秀演奏者に選ばれた。第1回コンサートに出演。これまで、藤原久美子、中山美穂子、藤原久美子、高橋真由子、穂積ひまり各氏に師事。現在ソロを中心に各地で演奏活動を展開。京の音楽家クラブ、琵琶川クラシック協会会員。

私は早産のため未熟児で生まれ、IRDS(新生児呼吸窮迫症候群)により自発呼吸ができず、生命の危険にさらされながら、人工呼吸器で命をつないでいました。新生児期から小学校入学までこの母子医療センターでお世話になり、現在総長先生をしておられる藤村先生をはじめとする新生児科の先生方や看護師さんに助けていただきました。

4歳になり、地元の幼稚園に入りましたが、通園するとすぐに風邪をもらってきては入院していたので、ほとんど幼稚園に行くことはできませんでした。それで、ほぼ毎日家にいないと仕方なかった私に、ピアノ教師をしていた母が手ほどきをしてくれたのが、私とピアノの出会いです。

病弱養護学校に入学するのとほぼ同じ頃に別の病院に移りましたが、その後も、毎月のように入退院の繰り返しは続きました。母の姿を見ていたので、その頃から漠然と「ピアノの先生になりたいな」とは思っていましたが、小学校5年生の夏、ある先生との出会いが私を変えてくれました。

「真剣にピアノをやっていききたいなら今の健康状態では無理」と言われました。今思えば当然のことです。毎日の継続的な練習で上達するのに、風邪をひいて入院するたびに1週間以上練習できなくなるのでは、手だけでなく、体の筋肉も衰え、せつかく覚えた曲の内容も忘れてしまいます。それまで私は、自分が病弱でしょっちゅう体調を崩すのは当たり前で仕方ないことだと、どこかで諦めていました。でも、それからは自分の健康には自分で責任を持ち、うがい手洗いはもちろんのこと、マスクや消毒用アルコールを持ち歩き、感染予防に努めました。すぐに入院がなくなったわけではありませんが、その後は入院の回数は徐々に減り、今では自宅での吸入でほとんど自己管理できています。



中学1年で病弱養護学校を出て、地元の普通中学に移り、夢だった府立夕陽丘高校音楽科に入学しました。身体的にはほとんど健康な人と変わりなく過ごせるレベルにはなったものの、やはり私にはハンデが残っていました。弱かった頃はどこへ行くにも車で送り迎えしてもらい、いわゆる温室状態で育ったため、精神年齢が低く、まったく世間知らずでした。高校入学の頃に初めて自分の足で、切符を買って電車に乗りました。精神年齢の低さはつまり人間形成が遅かったということにもなります。

音楽を究めていく中では、人生経験や教養は不可欠であるにも関わらず、自分の身体の弱さゆえの経験不足で音楽が成熟せず、悔しい思いをすることもありました。しかし、健康な人たちが普段経験することのない我慢や努力を経験したからこそ、今の自分には他の演奏家にはない強みがあるのかもしれないとも思います。

高校卒業後は、京都市立芸術大学、同大学大学院修士課程、フランス留学を経て、この春から博士課程に進学することが決まっています。博士課程とは、修士課程までとは違い、一人のプロの音楽家が、さらに独自の研究をして知識や演奏のレベルを高める場所です。

幼い頃に人と同じようにできなかった分、これからますます勉強をして本当の強さを持ったピアニスト、人間になりたいと思います。





地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立  
母子保健総合医療センター



〒594-1101  
大阪府和泉市室堂町840  
電話 0725-56-1220(代)  
Fax 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。  
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

## センターからのお知らせ

### ボランティア養成講座を開催します

平成22年度  
母子医療センター

### ボランティア養成講座

日時：3月24日（木）10：00～15：30

場所：母子医療センター 研究棟 大会議室

対象：午前 事前にお申込みされた一般住民

午後 上記の方と活動中のボランティアの皆さま

#### プログラム

10：00～	開会挨拶	岸本病院長
10：20～	概要説明	西村（総務人事グループマネージャー）
	ボランティア登録の流れと活動紹介	土田（ボランティアコーディネーター）
10：40～	ボランティア入門（仮題）	日本病院ボランティア協会
11：40～	面談	
12：00～	施設案内	
12：30～	昼食 ※ご持参下さい	
13：30～	ボランティアに期待するもの	藤村総長
14：00～	母子医療センターの感染対策	血液・腫瘍科 井上部長
14：30～	子どもに向かう私達の仕事（仮題）	後藤（ホスピタルスペシャリスト）
15：30	閉会挨拶	岸本病院長

3月18日（金）までにお電話にてお申込みください（無料）

大阪府立母子保健総合医療センター ボランティアルーム

電話：0725-56-1220（内線 2009）

### 医事グループ 移転のお知らせ

◆ 医事グループは1月24日  
◆ から1階から地下1階の  
◆ 食堂跡に移転しました。  
◆ 外来窓口から遠くなり、  
◆ 何かとご不便をおかけす  
◆ ることもありますが、よ  
◆ ろしくお願い致します。

### ボランティアによるご兄弟姉妹のお預かり

患者さんのご兄弟姉妹の一時預かりを行っています。（事前申込制）  
月曜日から金曜日の10時から12時までです。（緊急の場合などは相談に応じます。）  
お問い合わせ・申し込みは、病院スタッフ（外来・入院）までお願いします。  
※申込多数の場合はお断りする場合がございます。ご了承下さい。

ボランティアコーディネーター 土田 輝美

#### 大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

1. 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
2. 患者さん中心の、相互信頼の立場に立った、質の高い医療を行います。
3. 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
4. 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。